掌中其角發句集

全

掌中其角叢句集

春之部

日の春はさるをうの勢乃ほ[illegible]

題黄金

目下幾万年一万枚を御代の春

弁慶所より居をうつしを

ひめひの松もかさそ[illegible]

[illegible]や家中礼を星月夜
[illegible]走る野(サヽ)[illegible]のや春の物狂ひ

蓬莱の懐

[illegible]三の書院乃かゝやくまて
[illegible]

こゝろあも女房もせんを祝ひ
[illegible]や額[illegible]なつ乃扇を季

宝引の懐

保昌[illegible]胴[illegible]
蛭子帝かきとり帳乃三枚目
大恵殿[illegible]
年神[illegible]小提[illegible]那
景清[illegible]二荷
百人の雪かき[illegible]
砂地の水菜も[illegible]初茅葉
島[illegible]茅菜指

長嘯の記をかもひ出て
土手ぬるくりんをむけふ菜摘うれ
四月廿日冠里公伺侍
菜刻この上手を撥る　蕨の郷
新三十三間堂
新菓菓やうちふの笥見も木綿賣
まつのしら枝のさりあや　毒乃茶
うめうめうめや元食のかしものそうる

芭蕉翁百ケ日　懐奮
墨のうめ素やむかし昔ゑ
氷脱玉骨うめや
芝のしみ〳〵蕊も香にも梅の皮
うぐひすの角を逆ゆるる
蕾うめくそのゑ　杉陵
芭蕉庵七ゝ
ぐく比奇や十日ゑもれちうめ

[illegible]

柳上鷺の居年

さらしなアよ鷺ノ形新月の柳哉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月十七日原驛

富士の獵都乃太夫[illegible]

治徳岩城よ逗留し[illegible]餞別の句

なきを限り[illegible]

松嶋や[illegible]

不二の[illegible]

三帆無八[illegible]

[illegible]

孫ともの蚕やしなふ日向の郡
とるさめや桑の香よ破ふる尾張
春雨やひとつぶとめあり粘てし

三州小酒井村観音寺納

かき橋や鼾もすなる春日哉
伶人門前や喜の字名
ひなまつりや太郎家へひとつのこ
春雨やそ桑はさえて稚木し

寺納

金柑や色青よけれども稲荷山
愛よりは佐多 水前寺
佐忌

人の芋ゆ弥とらるる日の寺とし
授記品無有魔事
ふるふるふるふる彼岸の夕日哉
不生不滅のこゝろ水を

海棠の斬を悟き　ねさん像

二月十五日上京発足

西行ゑん死出路を旅のさゝ笠

寒食や竈下に猫の目を怪しむ

今業平ゑん食の家こゝハ自兎畠

すこゝと梅やつゝ咲やけさくし

山里ゑんもちつゝや作猫話

菓屑ゑん死狐ゑんさゝの尻

綱ゝちゝ　猫ゝ嗜ゑん　西行の那

この両ゑん　ゝこの夕ゝん日次ゝ

本多総物云ゑく

ゑの数や業津の鞍ゑん夢さゝ

障後之志　初春之女之

昔のなゝ月音三井寺　菱孔雀

引ゝゝ蕎ゝ　ゝゝのゝ春の弱

画賛

浦島うたうの書の翁の姿
たゝおろし俳うたゝす 小稽の船
禁囲破りて暖と玉ハルと
破やぶれあるゝ以張弦父子ゝめ
やゝ入やそれたいたゝれ見ハ星
画讃
拾得の風巾より出る玉箒
のつゝらや江戸とたれもぬ風巾

柳燕の図
乙鳥の蓑とゝこうす柳うゝ
海ゝの虹紙ゝ張燕う船
うゝ紅紙の雛子の距外
角田川ゝ
ゝれも其子と弱侍う雛子の姿
俗ゝいゝらぬめたゝへゝ呼子鳥
花さそふ桃や家鴨の服踊也

酸し桃李の待人繁花さそし
菓子盆に書し人形や玉兎
鶏の郷子不はけ〳〵逆毛哉
順禮八ツ沼や鶏わかせ
老鶯や書しきの中さのぞきぬ固本丹
王子曲水かくれさそし
烏帽子ふき出す岩つゝし
曲水や陸の家遠き菜碗哉

みゝ塚や盥に入ぬ松浦舟
上総ぶり雛ぶんぶのさの形ちり
うゝ会をひらもしたまめ虎ふ母
陸の動れ清水坂紙一目う那
永代島八幡宮奉納
沙弓也九つ〳〵まるれ法貝
親ゆゝ心比目を鳴ん沙弓れ
法雲寺の浪ぶうのきうるの貝

妙法坊より義経を送りしよ
文八めを不憐ながら出を使の郎
上野清水堂にて
殺生をなすものも盗ぬすみをなすもの
祈よ殺生偸盗あり
なるを地獄に五戒堂さんさんぶ
おもしろくとゝのゆるを義もけらるゝ
上野みやく

浅草寺

浮助や鹿従見よ四〇〇 観 寺
護国寺にてなる時にあるを迎へられて
忘雲や花ぶなり鳥を嵯峨
られさるり 鶴 人もあり
大佛勝うり 雲らんるの雲
世の花や五年 寒乃 女
立君七ぬ
さ穂めく〇〇 下人よ花ろも

法利姓人いとはしや苔ゆかしきに
苔さへ子をもつたるる夫婦哉
人を人を哀のまゝや花と名
雜夏ものうて
山里は人ぬしなしの花見哉
花ぶく人の孫ありあつまる
花は都まちまち夫はまちまち
かんさしや蕨もく花のおりにも

三月正當三十日

やぶ蚊さも柳乃糸弦まゝみ哉

浅草川逍遥

鯉の髭は山ふきの影やきぬ今
小雪降る雲の翁うつし山
きりぎすを豆腐と切て捨もな
水鄙や鼈まゝ炊ち京桐
ちゝにみぬ五徳やあちの雪

綿弄る義経風八幡かし
秋航庭さらさらとなる
たそうまや菊うゑ扇取
市尉喧
つを水屋のうなゐ足形雨桂
景改ゝ片月沈ゝ田螺ゝ那
何必逃杯走似雲
武蔵なたこゝ遠夫ゝ日長

夏之部

風光別我苦吟身
大酒すきまくらきき袷角
一ゝとろゝ稲すなゝ墨水ゝ
越後屋小紺さくゝ夏衣
ゝの名あや形ゝ寺ゝ郭公
有明面延ゝ月ゝ
川むこう浴屋へゝ

鶯啼やこのなつなを子規
あのつきの形見とぢそふ杜宇

林中不責薪

せよとなくや山ほとゝぎす町もうれ
禁寺　五加うれく　ぞあるとぎす
なくきゝ人ぞ弟　ぞ　ぞ　ぞ
おとゝ交す二ぞめ　ぞ　ぞ　ぞ
ぬのゝ忘れ　ぞ　ぞ　ぞ

上行寺　三句

灌佛や　拾子　仏　寺の　兒
涅仏や　墓よ　ひ　の　ぞ
外の花　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
蟾　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

慈母墓

花水　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　茂　那
僧正　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　楓

ゆかしく色のかさねこの牡丹哉

艶さをめて

八重咲うつくしや笑ふ牡丹の那

殿つくり並べ置ゆゝしき相ある

たのもしき愛のまんりるる

うつくしき森の愛なみたる鶯の那

妻鶯の卵哉丹ぬめちこの哉

人のまことあひ新しまかつを哉

芥子ばかり花さきたる路の頃ほいかな

祝産育

たらちねの皮年勝の弦つくり

麦よかし唐の月也月也遅乃秋

能化堂麦つく僧哉ものしき哉

四家

子乙女又是ばかりつゝ晩しさよ

汁粥よ笠の内うくや早苗とり

早乙女共とゝのへぬ影を新たなり

桐農

燒鎌の脊中ふめつゝ田芋ほり

幟綱沖にゝほふ帆たけ新

形ゝ作る弧未茶のこゝろ殘幟

茶ばなや見幟もしのぶ新嵐系新

宮門ふ入時

あやめ見まゝ時ゝ傳子のみとりふ

和歌浦女乃塔沢ニ入て文こゝろ

山笹の粽やゝ見まゝ沖ちくさゝ

ゝ所の戸や此川ニて家のあひ粽

新ぬゝふ男子ゝ所ふもゝや五月雨

題紀戸八京

住吉くハ東ハ源川の新の雨青

ゝゝゝれや汐の樋新山ふりの菖

五月雨や君のこゝろ孫ゝゝれかゝ

五月雨やうしかうたつる小人形
牛の尾と打うしきやゝ五月雨
下雪や地根性乃ふくと鶯
江戸の山うしろよ何を閑古鳥

僧正ヶ谷

俺しらぬ貝殻ばかりなることを
ゆ鶏啼衣まよ逝りのつとめぶ
鶏ひつれて一里ハ来ぬ岡乃松

和古詩

琴弦撥ぐ水雞を煮夜酒沸し
枇杷の葉ゆられ角ぶき 蛇牛

宇治ゆく二句

紫苑ゆ古ひれて蛍ひれ
川ゑ戸ゆ水ゆ二ゑ重ほる 恒

愛娘子

鶏啼ぐく玉子ゆ抜ぬなり兎

酔て忘
宵の枕も枕とさだめ八幡宮
捕虎東坡
七つ毛の敵よりもむや是疾鬼
二つ切火や敵張るうち光ひろ
敵をやくや袋奴う国の私語
生死去来
鳥引敵をいくさうち暮のうち

射者中り変者勝
縄赤よりいろまとをかめて張うろ
いきけさいらちをかされうろうさめて
きうう絶える美を活こう登の私
婚姻よ宇治の伝しや一こうもと
二八ちりの初出ちうに羽色れ
受代の暮ふるの秋やうり柏
雪よ入る月やちり不二の山

浅草川遥遥

富士ゆ見ゆ網代ゆ火たく夜ぞ寒き

水宮やま里慈の柴ゑ見し日かけ美

夜芦や標葉ゑ〻く河面ゑ

百合の花ぞ〻ゑ〻ぬ花ようつきぬ

懐柳の小路ゑ〻いゑ〻車百合

石橋冥や朝見し花を夕日新

初ゑ〻ゆ猫の糸目なる松葉

みるの蓑や汐ゑ〻ゑ〻の磯馴松

瓜ゑや桂の生ゑ洲ゑ〻ゑ〻

干ゑ〻ゑや杉ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻

蓋生ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻

市原ゑて

出ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻

表ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻

死の海を汗ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻

ふるゐや門後たまく　初指月

丹中唫

さてふの筇波嶺虹を星ゝ哉

夕ぢちの法華のもとこむらさき

夕立や乃坂とのゝ八滝

ちりめんや糸屋紙のふる傀儡師

樣狀ぶこゝ源義三の子やをとゝ峯

あんみくの跡ゝ清水の影ゝ哉

紙屋殿の加り屋ちゝふ

杉の塔も青水無月弘法旅の那

里弘子を歌宮ゝひさ壹鼓の那

七日

鈴木の糸人のきぬひも新うれ

山王氏子とゝ

新宮まゝ天下祭や土ゝる藏

番付を賣もまうり弘さやひ式

風むかく程年六十なるかつさぶ
小女乃帯よりなるべし あつさぶ
無暑し 眺れのそく雪ぶ新
月ふるむ一重羽織も浮世哉

昼よういとく

うく藤やうはめる麻形市
あの彩る風の涼ちる扇うな
うちかの風情日ゑる老扇ぶ

序今はゝ元上京の後
涼まうく形の我々や連と金
夕暮ぶすゝしき風のちひる角
淀川歳々吟涼
舟人数無れそ涼を郭
河岸見影ぶ涼ぬ孫か車
ゝゝ帆平新涼のち髪
涼をうく涼む角あり 鬼ちち

この松下あを風あり座涼を
動かす月新涼きりし涼を外
上下を裸の多紙 拭ふまを
手拭肩とうちもむこ 夏旱
夏痩よ 能因歌もかくもかくり
葬下 形くや 六月 郭公

御稜

夏稜 法師の宿札をうりり

秋之部

文月や 浴を感ずる蚊屋の中
七夕や 筆を入れて笛をとく
星合や 竹の子 疫地乃瓜つる
ほしあひや 山里ひらし 雨ふる戸
九腰の 治郎笠 星むこ

雨後

鶯や 石垣おりし乃 搖もあ

あさ〳〵ちや 九太郎屋敷 天の川

新居

蟬 梢かぜ〳〵のうへや 銀河

稽賀うひとせの流れまも すの川

りふ星も賀よりかめ墓や 女房も

二挺立帰棹

鑿ものくるつれなし 星の家

井の柳きのふ祇 相の一墓の那

朔かぜ立てあさとも 水鳥もの

あさ新やうれきふ片く 弦にの物

ねさのやうしまむ人を 休 格子

もう交ぜ出けるうけ 扇の贈

軒の月や積 月ぬまく 遠あの歌

蓑 月 ちちかめ 乳乃 二墓 乳

市隅

西側 ヨ 蹴鞠たるれや 三日 月

又る人もすくなう灯籠年ごとのうり
遊山火と書のの祭日書や戸迄へ
あつまる所かのちさき玉の夕色う那
たちもの借金乞ものなりけり
稲荷や祭り所多おきハ才子坊主
送り火や宝象のうり十文字
測ひう濤あり元や生月浦
さし鯖を廣間年羽をうりう

嘉山書屋
躍子ひるて吹くへ星を北
上手かと名を優美なり角力乞
トムや志ゆ小ぬれて対すまふ
小屋涼し花火ひ背のまち当
稲妻や朝暾しを新ものと又
齋虎ひ戸さ芝居高なれや
新ちひ後ちひ高や国の外

宇治山水

川ばりや葉ゑかくれ加減

中のみなと

幸清ゝ雀弦戸ゝきや雪ゝ松

蘇ゝ雪ゝむすひ雪ゝ雪ゝササ芽

萩もの紅菩薩あて見し上童

蘇ゝ雪ゝ菊ゝ西瓜千枕借ゝ男

たゝさゝ雪ゝ蛤貝ゝ雪ゝ雪ゝ

井筒脇ゝ画ゝ

いそゝのゝ作稿ゝむゝふ落ゝ

角文字や伊勢の暦句の花落

せゝかゝ松

蝶弦みや落紙かけて小松原

二見ゝて

岩のうへ所風寒し芝芝

沾徳餞別

点さゝぬ人ぞ若うれむすべ
ゆ[illegible]のる姫法師を女郎花
ゝを武蔵年暮も角とくし花
芋掘ら名て雨を受風の屋とり哉
死ぬ時ゝ[illegible]ふ花ゝ安達ヶ原なれや
妓子万三郎哉悼ゝく
打行ようつらやのる牛の歩
晨鮑のかゝとやうゝや蟬乃うゝ

もむ月や髪ぬたくるたりゝす
アムりゝよ蚤虫さのゝ浅茅うな
ゝもむ〜や松ぬさゝへ若ハせゝく
蜻蛉やゝるひゝ[illegible]ゝ三日月
歌湯豆腐
石ゝの泊ゝ雁哉濁ぬ豆腐哉
陣家ゝ元弦ゝくゝを
大弦ハ晒を元結ゆ落る屑

雁の股見遠新雪やふる弘上
ちゝ雪ゝ蕊ゝ弘きさゝ救ハ雁
泥亀の鳴ゝ年 遠ゝるゆゝ
平家の裏を借るゝ
ゝのゝゝ来ゝ猫原さ陸一鶴ゝ
木兎や百舌ゝ鳥ゝ巾りゝ
秋葉禅定下山
かゝゝ多に杖を投ゝるゝ

悼朝雲

氏人年二百十日登なき
春日法乗

今歳日あ交弘表結を裏日や戸
作の町妻吼る 犬ゝ鳴 也
芭蕉庵の秋
墨染を鉦鼓ゝ鳴ゝ
ある長者のゝ

中の夕又森ぬ子幾人さらさらめく

和水軒宅

さい槌弦高弦仕舞へを碪の音

ふすひきの弦手ふ

甲斐弱や江戸へくくと梅葡萄

眼めやる亟谷やるふ鶯百迄

盃と挽を画く

中椀ぬ黒ぬも庶定又三日月

玉津島帰望

ふこのハみつ更井弦月を秋百うれ

燃杭可火ぬつきぬ月夜哉

庖丁の片袖くくし月乃雲

月のさそう詩の舟ら山市ら川武ら

所思

ゆさそひも公法くくしや十四日

待宵や明月ふ二見へ道者ふれ

木母寺にて亭の會ありしの月
烏帽子屋八百屋きてこしらへの
雨
釣うらく釜買ておもしろき月
川もちの軍屋八百屋けふの月
沙汰をこのこしてあんをやらふの月
伊勢濃 文暑 老子はあり きふの月
酒くさき鼓うちきりふの月

風雨
雷手 楫ハちひさそ月見哉
名月や居酒のまんと頬のふり
名月や作をさそる学ら雀
名月や金ちひろの子の面ん皮
新月やいつをむのしのせきと山
待乳山
七青満宝 掉出ふとんすのる鳥

松前の君より御あるこさ吹え大根ふく老ぬ　炉の月

如是果のうつる酒を

二子山ふたつ子初ろ霧　栗ぬすの

泊瀬女子榜のたふさ紙ぬひうり

子籠の柚ぬ茶ふのうし　匂ひうれ

南天やおのうつ実は出山の杉

菊天や炉の戸へ新小倉やま

たきうりや鼻乃先なる家ふるさ

稲茶見て　女待て人　さゝら川

早稲酒や稲荷ひ出す焼うと

足めの家亭主ふ三人を　野酒かな

横儿追悼

一歌を　手向ひとるや　彩糸

ちこ雲やたれまつく歩い　蕎麦畠

生涯とふ雨雲ちぬ　生弱山

賀ふぬまこて山路の菊を三徳に
ふるかしこの道を行ある菊の宿
宮川にかとりよ酒送りをられて
重箱よ花をさとりの粽菓子
作花のせこと船きたひそうしく
出世者の一月を西うし法うり菓
時服義菓ふたきく出る色うな
九月九日廟を拾ひる人に

さくや名も星屋の輝く礼あり式
多入のなりうなる御うむしし菊
産寧坂ふりて
菊紅葉をを跡ともちうり亮
ちくのうち水やはしきく流るめり
毋と月見をよ
森ゝ穂ねハ雨元改の十三夜
うまくさや江屋ちく三徳の十三歌

ちりそもむ茶師を猿蓑の十三歌
やとる月数を拾ひ　木挽甲

戸越山庄

むらさき茱萸の実をはらはらと白うれ
谷へつゞく蔦紅葉の紅葉かり

新殿六間港

ちつのぬ蓼のそよ〳〵冬やゝ紅葉
葉のつゝ紅世やさきりて岩なつさ

霍ゝ岡古樹のゆゝしきに
ゆゝし代の供奉の扇やちる銀杏
泊房の茶屋学兄生あ笛を好るゝ
うゝる狂悼ゝく
ちつゝへや笛ゝあ手ゝ塗足履
見〳〵月や大ゝさゝれゝ九月尽

九月尽

森ぬ衣松風分のうゝ妹を師走哉

冬之部

神無月ふくらし者ゝ有まゝ書き
宮祢や祢宜の湯治の神無月
東方ハ祇園清水とうとうと
揚弓よ名の立ちんとや神無
家ゝの留主居ちる形り　大社
あまきけと時雨ふる秋の雨の夜
曇かゝす片日のうりやむしられ

當麻寺奥の院おもふく
小秋ふくまゝ人と分ふ山居の形
松陰ハ現ハ息を去られの南
三尺の月城石河の去られ系を
守山の子よりの城背時雨の形
夏ちりう見ちくぬ茎長むら時雨
風よ　夕暮　世ハ乱ハ去ぬみ形し栗
このゝしとちりぬ拾ふのうつ世貝

曲翠と幻住庵のあと訪ふく

まがしもすアぬ嵐乃末繁うる

あらくさ毛ア片　枯木の夕つく日

のくひくる三井の二王や冬木立

仏桑の叢もさく古流頂戴のくさくさ

孔雀の下紐も解くんあたこのれ

玄猫とや狂父孔うふ枝打爆

帰花そ度ものんむしろきれ

埋火や　土瓶この老くさ笑り焼

閑居安慰

屋くの暖の焼孤孫さぬや灰ものを

寒鴉孫や巨燈ふとんさあぬうち

火燈のくくく蔭梦は吉来を挑たた

岩竈や　孤朱ゑ　龜井う　彩のまり

岩くりやおもろ岩　清水鼻をる

かくく岩もそ孤床冬ようく冬くく

法雲寺老僧春色を愛へてより
源氏をや季吟の家に堀子講
福天の床机にもたるや仕切帳
子八炭裏親をつゝみより夷講

新米

嵐まも屋のてをしらん金竜
落のたゝらを根うゑおもをかへ
ぬくゝと碧雲兎やふるさとより

のゝこきて今を弘巾もゝそちう
旅人のゝあ弘切ゝく火おう那
ゑ仙ゝをはゝ分ゆくや星ゝ秋

對友

周義の古酒をねゝうゑ室に変
おゆゝのハ先ゝ形ゝへを大根引
去賓を世ゝの月ゝるさまゝ干菜ゝ
宗春の猿味噌ゝうき世ゝ死る納豆ゝ角

つゝ孫子兎の耳を引たゝを
金義のおのまとうるる 雲の絶
卿の家乃義信よ樋の寄けるに
紙張信よ 張者たゝめん 烟の雲
きゝ雲よ 何とおもうゝ 雲の中
樓閣の俗ゝ雲
栗めしの焦ゝ白ふや雲の絶
あゝ雲ゝ かゝれ歌ひそけ雲の盤

世界子舅城ゝふや河豚しる
ふきゝの浦おめゝ雲
鈍ひゝ雲へゝ 細引雲
ふく汁や祝言のゝ能 雲
妻ゝ雲 飯ゝ雲みを 小袖衣
麩鍋をふりさけゝれば 厨の那
足袋ゝやゝ雲ゝ雲ゝ雲を 学 盤
蛎むきゝ 雲ゝ雲ゝ雲ゝ雲

鯉ひとり[illegible]の秋のさびしさ

梅津某秋思へ数句を送り侍る

[illegible]呑[illegible]つく綱代より

網代より大根ぬきとるもかな

市偶の侘人子

宮業屋[illegible]しなれて矣[illegible]

越後屋の算盤[illegible]小春ちら

[illegible]ちらり[illegible]の憂おもく

[illegible]川雲や雀の扶持乃小土器

[illegible]つ雲や赤子小[illegible]る朝朗

市中閑

[illegible]雲や門[illegible]搗[illegible]久[illegible]

[illegible]雲哭小[illegible]の清[illegible]や鶏[illegible]雲

[illegible]の雲[illegible]下り[illegible]

[illegible]ぬくし大[illegible]や[illegible]の雲

[illegible]み勝[illegible]や雲の友

雲の日も蔦うつる乳母桑哉
枝出しくもさはるふ柄かく孫
雲おりろ折のかき葉よみてきくん

雪窓

換料の史記も師走の蛍うち
煤手あへ師走の菊も麦まけ
南紙手巾乾て乾時
雪夢や南大門出水出舟

あのの方の花波ふしうつや雪乱
節季は八尤孔耳ふ ちるとあ
燥ちるく寒く教ふ女房めつしや
童あるを表ふ孫孔市やすくるふ
のちる花や嵐ら目月ちるる孔山
中孔市孔雀ちるの雲ん孔形ちの
りちるも松戸めて孔し鮎の孔
雪ちるふ唾ちるら雲ちん孔鏡ちる

明年や壁ふたちくるる笑くかき
子をもつ八ツ月形久き年の昏
海中の板下みくり年のくれ
聖代ちくるの船のうちちる笑かな
年越やさく業平の唐種ひき
大晦日ねりのくちうちう年くるき
聖代
鶏ありくくにかきふ大晦日

江戸本石町十軒店　萬笈堂英平吉藏

其角發句集　二冊　嵐雪句集　二冊
蓼太句集　六冊
俳諧文集　蟹守大人輯　高附言名の俳人の文纂輯　二冊
發句古今撰　同輯　附葛里連句集　三冊
俳諧新五百題　護物大人輯　二冊

新五百題後編　同輯　二冊

發句類聚　琴松大人重校　二冊

發句類題　雪中菴大人輯　二冊

發句五百題　白雄房撰　二冊

俳諧[illegible]の[illegible]　葎雪庵北元大人輯　二冊

[illegible]の[illegible]を[illegible]季[illegible]の[illegible]より集む

俳諧[illegible]燒灯　季吟の書　二冊

猫の[illegible]　季吟懷中小本　一冊

俳諧四季名寄　懷中本[illegible]撰　季吟大成より　一冊

俳諧季吟後覽　懷中一牧擂

萬葉用字格　春雄上人撰　万葉集の[illegible]　一冊

定家卿の[illegible]　一冊

今古の形世　言井八穂大人撰　折本　一冊

尚古の那世　山本昭徳大人撰　折本　一冊

對照の形世　蓼渡る大人撰　折本　一冊

音便撮要　素堂上人撰　懐中本　一冊

子島の跡　中臣親満大人撰　一冊

此の書を色紙短冊又の書ものとおも膳紙もちいて古人の書筆よりうつしいたす